

専門分野 I

授業科目	看護学概論 I 看護の概念
開講時期	1年次4月～9月
単位数	1
時間数	30
担当講師	専任教員
実務経験者	○
科目目標	<p>看護の基本的概念、つまり「看護とは何か」を知ることが目的にしている。看護を説明する際に必要な視点は、人間という存在・現代社会における健康・看護がめざす健康とは・環境が人間の生活に及ぼす影響などである。</p> <p>以上看護を考える上でのテーマ、「人間・健康・環境について基本的な知識を学び、学生みなさんの生活体験、著書を通して考えを深めていきます。</p>
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 「看護とは」について、基本的事項を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 基礎看護学の全体像ガイダンス 看護の本質 <ol style="list-style-type: none"> 看護が専門職になっていった歴史 看護の定義 看護の対象の理解 <ol style="list-style-type: none"> 人間の心と体の全体性 人間の心理社会的側面の発達 エリクソンを中心に 危機モデルについて 健康のとらえ方と国民の健康状態 <ol style="list-style-type: none"> 健康とは何か(現代の健康の考え方) WHO/ICF/健康モデル 医療政策の変遷と人々の生活と健康に関する統計 看護の提供者についての理解 <ol style="list-style-type: none"> 看護師と看護の法的根拠 (保健師助産師看護師法) 看護師教育と看護師の専門分化 看護師のキャリア開発 看護における倫理についての理解 <ol style="list-style-type: none"> 何故倫理を学ぶのか 患者の権利とインフォームドコンセント 日本看護協会「看護者の倫理綱領」 看護の提供のしくみについて <ol style="list-style-type: none"> 看護制度・医療制度 国際看護について 災害看護について
授業形式	講義
テキスト	看護学概論(医学書院) 看護覚書: ナイチンゲール やさしい看護者の倫理綱領 看護の基本となるもの(V・ヘンダーソン)
評価方法	記述試験 課題 レポート (100点満点)

授業科目	看護学概論 II 看護の理論
開講時期	2年次 4月～5月
単位数	1
時間数	15
担当講師	専任教員
実務経験者	○
科目目標	看護理論を基に看護者として考え、看護とはを自分の言葉で表現できる。
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 看護理論の理解の必要性 「看護の基本となるもの」の抄読のガイダンス 看護理論の抄読 グループワーク(演習) 私達が考える看護 発表とフィードバック
授業形式	講義・演習
テキスト	やさしく学ぶ看護理論 看護の基本となるもの 看護学概論(医学書院)
評価方法	演習の参加状況・レポート (100点満点)

専門分野 I

授業科目	基礎看護技術 看護の基本となる技術 I 観察 フィジカルアセスメントの基礎
開講時期	1年次4月～10月
単位数	1
時間数	30
担当講師	専任教員
実務経験者	○
科目目標	1. 観察の意義と重要性を理解し看護実践の基盤となる技術を習得する。
授業内容	1. 1)ヘルスアセスメントの意義と目的 2)観察の視点 (1)ヘンダーソン (2)ゴードン 2. 1)健康歴とセルフケア能力のアセスメント 2)フィジカルアセスメント 3. 1)フィジカルアセスメントに必要な基本技術 2)計測の基礎知識と測定方法 4. 1)看護活動における看護記録 2)記載・管理の留意点 3)看護記録の構成 4)看護活動における報告の意義と適切な報告の条件 5. 1)バイタルサインの観察とアセスメント 2)体温・脈拍・血圧・呼吸・意識に関する基礎知識 3)バイタルサイン測定後の観察・アセスメント 6. 系統的なフィジカルアセスメント 呼吸・循環・筋・骨格系・神経系・腹部のフィジカルイグザミネーション 演習: バイタルサイン測定の実際と記録 フィジコを用いたフィジカルアセスメント 瞳孔の観察の実際と記録 腹部のフィジカルアセスメント
授業形式	講義・演習
テキスト	ヘルスアセスメント(メディカ出版) 基礎看護学②基礎看護技術 I (医学書院)
評価方法	記述試験・技術試験 (100点満点)

授業科目	基礎看護技術 看護の基本となる技術 II コミュニケーション 援助関係論
開講時期	1年次6月～翌3月
単位数	1
時間数	30
担当講師	専任教員
実務経験者	○
科目目標	1. 看護の対象となる人の尊厳に応える基礎的看護実践能力を養うために、実践能力の基盤である援助的人間関係の形成を、演習を通して身につけることが出来る。
授業内容	1. 看護者と看護の対象にとってのコミュニケーションの意義 1)科目の狙い 2)コミュニケーション技術を学ぶ意義 3)演習 2. 医療従事者としての基本的コミュニケーション 1)言語的・非言語的コミュニケーション 2)関係構築を促進させるコミュニケーション ※当校のコミュニケーションチェックリスト紹介 3. 初めての臨地実習について(終えて) 1)演習 コミュニケーションをふり返り、患者さん像に活かすために 2)ウィーデンバックの10の秘訣 4. 積極的傾聴法(アクティブリスニング) 1)傾聴法とは 2)期待される成果 3)オープンエンドクエスチョンとクローズドクエスチョン 4)カウンセリングとは 5)演習 患者-看護師役の演習 5. アサーティブコミュニケーション 1)アサーティブとは 2)演習 アサーティブに取り組むために 6. 人間関係を基盤とした看護理論家の理解 1)トラベルビー(ロゴセラピーとは) 2)ペプロウとオーランド 7. プロセスレコードによる援助的関係の理解 1)プロセスレコードの意義 2)プロセスレコードの記載方法 3)演習
授業形式	講義・グループワーク
テキスト	基礎看護学②基礎看護技術 I (医学書院) やさしく学ぶ看護理論(日総研)
評価方法	記述試験・レポート・発表 (100点満点)

専門分野 I

授業科目	基礎看護技術 看護の基本となる技術Ⅲ
	安全安楽
開講時期	1年次4～5月
単位数	1
時間数	30(6)
担当講師	専任教員
実務経験者	○
科目目標	1. 人間・看護における安全・安楽の意義を理解し、人間の生命に携わる専門職業人として、ヒューマンエラーが不可避な特性をもつものである認識をもち、リスクの認識の努力と感性向上の重要性を教授する
	2. 安全を脅かす要因やその要因を排除する方法、安全・安楽な技術を提供するための基礎的知識を習得する
	3. 医療事故・インシデント事例より要因分析・対象への影響、誰しも起こりうる問題であることを自覚し、対策を講じることでリスクセンスを向上する。
授業内容	1. 看護にとっての安全安楽の意義 1)人間にとっての安全の意義 2)対象の安全・安楽とは 3)ヒューマンエラー(人間の認知) 4)看護者が対象の安全を脅かす要因 5)安全安楽を守る技術の特徴 6)安全に関する用語の定義
	2. 看護者としてのリスクセンスを身に着ける必要性 1)リスクセンスを身に着ける必要性 2)3大ヒューマンエラーと5つの要因 3)事故の要因となる看護業務の特性 4)安全を脅かす要因を排除する方法
	3. 主な医療事故と予防策
	4. 身体拘束に関する基本的知識
授業形式	講義・演習
テキスト	基礎看護技術Ⅱ基礎看護学③ (医学書院)
評価方法	基礎看護技術Ⅲを総合して 記述試験(100点満点)

授業科目	基礎看護技術 看護の基本となる技術Ⅲ
	感染予防
開講時期	1年次4月～12月
単位数	1
時間数	30(14)
担当講師	専任教員
実務経験者	○
科目目標	1. 感染予防の意義・基礎的知識を習得できる。
	2. 感染予防対策に関する基礎的知識をできる
	3. 感染予防に必要な技術を基礎的知識をもとに実施できる
授業内容	1. 感染予防の意義 1)看護師の役割 2)感染症に関する用語 3)感染に関する法律 4)感染症の分類
	2. 感染症を成立させる要素と成立過程 1)感染の成立過程 ・宿主の抵抗力・防御機能の増強 隔離方法
	3. 組織として取り組む感染対策 1)感染経路別対策 2)病原体対策①滅菌・消毒 ②滅菌方法・消毒方法について
	4. 感染症を予防するための技術(演習) 1)スタンダードプリコーションの実際 (防護用具・清潔・不潔の区別破棄物の取り扱い) ・感染性廃棄物の取り扱い 2)ガウンテクニック・(ディスポガウン・滅菌ガウン) ・マスク・ゴーグル 3)無菌操作 ・滅菌手袋の着脱 ・滅菌単包装の開き方 ・鑷子・鉗子の使用方法 ・消毒薬の注ぎ方 ・滅菌物の渡し方
授業形式	講義・演習
テキスト	基礎看護技術Ⅱ基礎看護学③ (医学書院)
評価方法	基礎看護技術Ⅲを総合して 記述試験(100点満点)

専門分野 I

授業科目	基礎看護技術 看護の基本となる技術Ⅲ
	指導
開講時期	1年次後期
単位数	1
時間数	30(10)
担当講師	専任教員
実務経験者	○
科目 目標	1. 看護における教育的役割の意義を理解する。
	2. 健康教育・指導効果をあげるために必要な理論について理解する。
	3. 患者教育の土台となる看護観・教育観・人間観がもたらす影響について理解
	4. 患者教育・指導に必要な態度・コミュニケーション技能を理解する。
	5. 事例を用いて患者に合わせた教育計画を立案できる
	6. 既習の知識を活用し事例を用いて患者教育・指導の実際を考える。
授 業 内 容	1. 看護における学習支援の意義 1)健康戦略の変遷 2)ヘルスプロモーション
	2. 健康教育に関する理論 ①自己効力感 ②健康信念モデル ③セルフケア行動の変化の過程と疾病受
	④エンパワメント
	3. 患者教育の土台となる看護観・教育観・人
	4. 患者教育・指導に必要な技能 ①患者と接するときの心構えと態度 ②自己決定を支えるコミュニケーション
	③学習支援効果をあげるための媒体 ④効果・評価について ⑤患者教育のプロセス
	⑥対象者の準備状態の把握・アセスメント ⑦指導目標の設定 ⑧指導案の作成
	5. 事例を用いて健康教育・指導の実践 ・教育計画の立案・展開(演習) ・ロールプレイ ・計画評価・修正
授業形式	講義・演習
テキスト	基礎看護技術 I 基礎看護学② 医学書院
評価方法	基礎看護技術Ⅲを総合して 記述試験(100点満点)

専門分野 I

授業科目	基礎看護技術 看護の基本となる技術Ⅳ 問題解決過程1
開講時期	1年次11月～12月
単位数	1
時間数	15
担当講師	専任教員
実務経験者	○
科目目標	看護の対処となる人の尊厳に応える、基礎的看護実践能力を養うために、科学的思考の基盤となる問題解決の方法の基礎を理解する
	看護過程とは何かを理解できる
	看護診断とは何かを理解できる
授業内容	当校書式に書く内容が理解できる
	<ul style="list-style-type: none"> ・看護過程の必要性を理解できる ・問題解決思考を理解できる ・看護過程の最初の段階である、情報収集とS情報・O情報が理解できる ・ゴードンの11パターンを理解する ・健康知覚・健康管理、認知・知覚パターン ・アセスメントを理解する ・看護診断(整理・解釈・総合・分析・統合が理解できる ・関連図・看護診断・共同問題が理解できる ・優先順位が理解できる ・計画立案ができる ・目標設定が理解できる ・問題リスト・受け持ち時の病態・検査の理解 ・SOPE・評価の書き方が理解できる ・受け持ち患者記録の書き方
授業形式	講義
テキスト	基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学 (医学書院)
評価方法	記述試験(100点満点)

授業科目	基礎看護技術 看護の基本となる技術Ⅴ 問題解決過程2
開講時期	2年次9月～10月
単位数	1
時間数	15
担当講師	専任教員
実務経験者	○
科目目標	看護における「行動」と「思考」を融合させる一方法として看護過程を理解する
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程とは 2. 事例演習—看護過程 <ul style="list-style-type: none"> ・病態の理解 ・関連図作成 ・情報収集の妥当性、解釈と分析 ・看護の方向性 ・望ましい健康像 ・共同問題および看護問題の明確化 ・看護過程の展開・評価
授業形式	講義・グループワーク・演習
参考資料	ナーシンググラフィカヘルスアセスメント (メディカ出版) 看護診断ブック(医学書院)
評価方法	看護過程・レポート(100点満点)

専門分野 I

授業科目	生活を整える技術 I
	環境・衣・清潔
開講時期	1年次4月～9月
単位数	1
時間数	30
担当講師	専任教員
実務経験者	○
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境の意義と看護師の役割を理解する。 2. 快適な療養環境をつくる要因と方法を理し、安全で快適なベッドを作成する。 3. 患者の負担を最小限にしながら、快適な環境を整える。 4. 健康な生活における衣服の意義を理解と共に健康障害時における衣生活の援助理解する。 5. 清潔の意義と患者にとって安全で安楽な清潔援助方法を理解する。
授業内容	<p>環境の意義と看護師の役割</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境とは 2. 環境調整の意義 3. プライバシーと環境整備 <p>快適な環境をつくる要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病室と病床の環境調整 2. 快適な環境をつくる要因環境を作る 3. 就床患者の環境整備・シーツ交換の方法 <p>就床患者の環境整備・シーツ交換の実際</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師二人で行う座位・立位になれない患者の環境整備・シーツ交換の方法 <p>ベッドメイキング</p> <p>臥床患者のリネン交換(演習)</p> <p>衣服の意義と条件</p> <p>衣生活への援助</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 衣服とは 2. 患者の衣服とその条件 3. 衣生活への援助 4. 和式寝衣の交換方法 <p>清潔の意義と援助の考え方・援助方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 清潔の意義 2. 皮膚の清潔に対する基礎知識 3. ケアが生体に及ぼす反応 4. 清潔援助の考え方と方法
授業形式	講義 演習
テキスト	基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院
評価方法	記述試験(100点満点)

授業内容	<p>清潔援助の実際 全身清拭</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全身清拭と寝衣交換(演習) <p>清拭援助の実際</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 陰部洗浄、部分浴援助方法 部分浴、洗髪の援助方法 手浴・足浴・爪切り(演習) 3. 洗髪器もしくは洗髪車を用いての洗髪 洗髪器・洗髪車を用いての洗髪(演習) 4. 入浴・シャワー浴
------	--

専門分野 I

授業科目	生活を整える技術Ⅱ(食事)
開講時期	1年次8月～9月
単位数	1
時間数	30(10)
担当講師	専任教員
実務経験者	○
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.人間にとっての食事の意義と現代の食生活の動向を理解する。 2.栄養・代謝のアセスメントとその目的、及び、食生活と栄養状態との関連性を理解する。 3.患者に応じた食事援助や技術の実際を学ぶ。 4.経管栄養法に必要な知識と援助ポイントを学ぶ。 5.患者の状態に合わせた方法を選択し、食事介助ができる。
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食事と栄養の意義 2. 健康な食生活と食事摂取規準 3. 食事と栄養に影響する要因 4. ゴードンの栄養代謝パターンに基づくアセスメントの指針とその目的 5. 食べることを支える看護の役割 6. 基本的な食事援助 (演習) <ol style="list-style-type: none"> 1) 食欲不振への援助 2) 嚥下・咀嚼障害への援助 3) 視力障害への援助 4) 運動障害・体動制限への援助 5) 口腔清拭の意義 7. 経管栄養法の援助と副作用 8. 経静脈栄養法の援助と副作用
授業形式	講義 演習
テキスト	基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ (医学書院) スタディガイドブック(照林社)
評価方法	生活を整える技術Ⅱを総合して 記述試験(100点満点)

授業科目	生活を整える技術Ⅱ(排泄)
開講時期	1年次 11月～2月
単位数	1
時間数	30(20)
担当講師	専任教員
実務経験者	○
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.排泄の意義と重要性を理解する。 2.排泄のアセスメントとその目的、及び、排泄に影響を与える因子を理解する。 3.排泄行動障害に伴う基本的援助について理解する。 4.日常生活動作に応じた排泄援助方法を理解する。 5.対象に応じた排泄援助方法を根拠に基づいて選択し、実施する。 6.排泄障害の基本的基な援助方法と根拠を理解する。 7.排泄行動障害・排泄障害の基本的援助とその根拠を理解し、実施する。
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 排泄の意義 2. 排泄に影響する要因 3. 排泄のメカニズム 4. 自然な排泄を促す援助 5. ポータブルトイレ排泄の援助 床上・オムツでの排泄の援助 6. 自然な排泄が困難な患者への援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) 持続導尿中の患者の看護 2) 浣腸・摘便の援助
授業形式	講義 演習
テキスト	基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ (医学書院) スタディガイドブック(照林社)
評価方法	生活を整える技術Ⅱを総合して 記述試験(100点満点)

専門分野 I

授業科目	生活を整える技術Ⅲ 活動・休息
開講時期	1年次4月
単位数	1
時間数	30
担当講師	専任教員
実務経験者	○
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の生理的欲求の一つである活動・休息について学ぶ 2. 活動・休息についての重要性や援助を行うための基礎知識を学び安全かつ安楽で、患者のみならず看護者の身体への負担を最小限にしながる技術を習得することができる 3. 休息や睡眠にかかわる看護者の役割を学ぶ
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 活動・休息のバランスの重要性 2. 基本的な体位 2. 活動の意義と援助の基本的知識 <ol style="list-style-type: none"> 1) 活動のアセスメント 2) 運動機能の維持・回復のための援助 3) 身体拘束、体動制限時の援助 3. 安全・安楽な活動への援助方法 ボディメカニクス（演習） <ol style="list-style-type: none"> 1) 安楽な体位への保持 2) ボディーメカニクスの基本 4. 安全・安楽な活動への援助方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 運動機能の低下した人への援助 体位変換（演習） 5. 安全・安楽な活動への援助方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 運動機能の低下した人への援助（演習） <ol style="list-style-type: none"> ①車いすでの移動援助 ②ストレッチャーでの移動援助 ③座位保持・起立動作の援助 ④歩行の援助 6. 医療の場における事故 8. 安楽な睡眠のための基本的知識と援助方法 9. 活動・休息のアセスメント
授業形式	講義・演習
テキスト	基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ （医学書院） ナーシンググラフィカ ヘルスアセスメント （メディカ出版） 看護学生 スタディガイド （照林社）
評価方法	記述試験・実技試験（100点満点）

専門分野 I

授業科目	検査治療における技術 I (栄養)
開講時期	2年次前期
単位数	1
時間数	30(10)
担当講師	堀川静香
実務経験者	○
科目目標	各疾患患者の栄養食事療法について、臨床で活用できる知識を習得する。
授業内容	<p>1. 栄養食事療法 <第1章 栄養食事療法とは> A. 栄養食事療法の概要</p> <p>2. 病院食 <第2章 栄養食事療法の実際> A: 病人食の分類と特徴 ① 病人食の形態的分類 ② 病人食の成分的分類 ③ 疾患に対応する病人食 ④ 病人食の宅配サービス</p> <p>3. 各疾患患者の栄養食事療法 循環器疾患患者の栄養食事療法 消化器疾患患者の栄養食事療法 腎疾患患者の栄養食事療法 栄養代謝性疾患患者の栄養食事療法</p>
授業形式	講義
テキスト	別巻 栄養食事療法 (医学書院)
評価方法	検査治療における技術 I を総合して記述試験(100点満点)

授業科目	検査治療における技術 I (採血)
開講時期	2年次4月
単位数	1
時間数	30(20)
担当講師	専任教員
実務経験者	○
科目目標	<p>1. 検査・治療における看護者の役割を理解し 介助方法や検体の採取方法を習得する 2. 放射線療法を必要とする患者のアセスメント と基本的な看護を理解する</p>
授業内容	<p>1. 検査の意義</p> <p>2. 検査の種類 1) 主な検査検体の目的・採取方法・取り扱い (尿・便・喀痰・血液) 2) 主な検体検査の目的・種類・留意点・援助 (X線検査、CT、MRI、RI など) 3) 血液検査 ・静脈採血時の事故と対策 4) モデル人形を用いての採血の実際 ・真空管を用いた静脈血の採血(演習)</p> <p>3. 穿刺・洗浄の意義と留意点</p> <p>4. 導尿モデルを用いての導尿の実際(演習)</p> <p>5. 放射線療法を受ける患者の看護</p>
授業形式	講義・演習
テキスト	基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ (医学書院) 看護学生スタディガイド(照林社)
評価方法	検査治療における技術 I を総合して記述試験(100点満点)

専門分野 I

授業科目	基礎看護技術 検査治療における技術Ⅱ 与薬
開講時期	2年次前期
単位数	1
時間数	30
担当講師	専任教員
実務経験者	○
科目目標	与薬を行うため必要な基礎的知識を理解し、安全および正確に援助できるための技術を習得できる
授業内容	<p>薬物療法における看護の役割</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物療法(与薬)の意義 2. 薬物療法の基礎的知識 <ol style="list-style-type: none"> 1) 薬に関連した法令 2) 薬物の吸収・排泄のメカニズム 3) 薬理作用とその影響因子 3. 薬物療法における看護の役割 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護師の役割と法的役割 2) 薬物療法における安全管理 3) 薬物療法における看護師と他職種との関連 4) 薬物療法における看護師の役割 <p>薬物療法における看護の質保障と安全管理</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者に対する事故防止対策 2. 医療従事者自身への事故防止対策 3. 医療廃棄物の取り扱い 4. 安全な注射のために <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療の指示の確認(3回 5Rの確認) 2) 清潔・感染予防 3) 注射の速度 4) 適切な与薬の実施 5) 患者の指導 <p>与薬の適用と方法1</p> <p>薬物の種類と投与方法(1)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 内服薬の種類と与薬方法 (目的・特徴・注意事項) 2) 外用薬の種類と与薬方法 (目的・特徴・注意事項) 皮膚・粘膜適用(点眼法、外用薬の散布) 吸入法・直腸内適用 2. 経口与薬法の適用 3. 口腔内与薬法の援助 4. 直腸内与薬の援助
授業形式	講義・演習
テキスト	基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ 医学書院
評価方法	記述試験・技術試験 (100点満点)

各種与薬の援助の実際
直腸内与薬法
1. 直腸内与薬法の実際
1) 目的および留意事項
2) 実施前・中・後の観察
3) 記録
与薬の適用と方法2
1. 薬物の種類と投与方法(2)
1) 注射薬の種類と注射方法
2) 処方箋や添付文書、薬物辞典の読み方
3) 点滴速度の計算
注射による与薬法1(皮内・皮下・筋肉内注射)
1. 皮下・筋肉内注射の基礎知識
1) 方法と種類
2) 注射器と注射針の構造
3) 注射部位刺入角度(皮下・筋肉)
2. 薬液の吸い上げ
1) 薬液の準備
2) アンプルからの吸い上げ
3) バイアルからの吸い上げ
3. 皮下注射の実際
1) 薬液の準備準備
2) アンプルからの吸い上げ
3) 人工皮膚を用いての皮下注射
4) 注射前・中・後の観察
5) 実施後の報告記録
4. 筋肉内注射の援助
1) 薬液の準備
2) アンプルからの吸い上げ
3) 人工皮膚を用いての筋肉内注射
4) 注射前・中・後の観察
5) 実施後の報告記録
上記4. 演習2回
点滴静脈注射1
点滴静脈注射の実際
1) 点滴静脈内注射の目的・適応
2) 点滴静脈内注射の刺入部位の選択
3) 点滴静脈内注射の実際 (穿刺・固定・点滴速度の調整)
4) 点滴静脈内注射の前・中・後の観察
5) 実施後の記録
上記点滴静脈注射の演習 2回
輸血の看護
1. 輸血の基礎知識と援助
2) 血液型適合試験
3) 輸血の副作用と注意事項
4) 輸血用血液製剤の取り扱い

専門分野 I

授業科目	臨床看護技術 症状からみたアセスメントと看護 発熱のある患者のアセスメントと看護
開講時期	1年次11月～2月
単位数	2
時間数	45(12)
担当講師	専任教員
実務経験者	○
科目目標	発熱のある患者のアセスメントができ、アセスメントをもとにした基本的な看護援助を習得できる。 発熱のある患者の看護を理解できる。 罨法の目的と方法を理解し、湯たんぽ・氷枕を作成し、貼用できる。
授業内容	1. 発熱のメカニズムと発熱のある患者のアセスメントの視点を理解できる 1) 発熱とは 2) 発熱と随伴症状 3) 体温の観察とアセスメント 4) 発熱時の問題 5) 発熱時の看護 2. 罨法の目的と方法を理解して罨法を作成し、貼用できる。 1) 罨法とは 2) 罨法の効果 3) 罨法の禁忌 4) 罨法作成の方法 5) 罨法作成の実際 6) 罨法貼用上の注意点 3. 事例を用いて発熱状態のアセスメント 4. 発熱時の看護の実際(演習)
授業形式	講義 演習
テキスト	基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ 医学書院
評価方法	臨床看護技術を総合して 記述試験・技術試験(100点満点)

授業科目	臨床看護技術 症状からみたアセスメントと看護 絶食状態にある患者の看護
開講時期	1年次11月～2月
単位数	2
時間数	45(8)
担当講師	専任教員
実務経験者	○
科目目標	絶食状態にある患者のアセスメントができ、アセスメントをもとにした基本的な看護援助を習得できる。 絶食状態にある患者の情報収集を行い、アセスメントをもとにした適切な看護技術が提供できる。
授業内容	1. 絶食状態の基礎知識 1) 絶食とは 2) 絶食と随伴症状 3) 絶食時に生じる問題 2. 絶食状態にある患者の看護 1) 絶食状態にある患者の観察とアセスメント 2) 嚥下状態検査・アセスメント 3) 絶食状態にある患者の経口によらない栄養方法 (末梢静脈栄養・中心静脈栄養・経管栄養) 3. 絶食状態にある患者の援助の実際 1) 口腔ケアの援助(演習) 2) 嚥下訓練 3) 絶食状態のアセスメント 4) 絶食状態にある患者の事例を用いての看護の実際(演習)
授業形式	講義 演習
テキスト	基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ 医学書院
評価方法	臨床看護技術を総合して 記述試験・技術試験(100点満点)

専門分野 I

授業科目	臨床看護技術 治療・処置からみたアセスメントと看護 酸素療法を必要とする患者の看護 創傷処置を必要とする患者の看護
開講時期	1年次11月～3月
単位数	2
時間数	45(26)
担当講師	専任教員
実務経験者	○
科目目標	1. 呼吸の意義を理解し、呼吸を楽にする姿勢・呼吸法、気道分泌物の排出に伴う看護援助を習得する。 2. 酸素療法を必要とする患者をアセスメントする力とアセスメントに基づいた基本的な看護援助を習得する。 3. 創傷処置を必要とする患者をアセスメントする力とアセスメントに基づいた基本的な看護援助を習得する。
授業内容	1. 1)創傷管理の基礎知識 2)創傷の観察 2. 創傷処置 3. 褥瘡予防 4. 1)包帯法の実際（演習） 2)創傷処置の実際（演習） 5. 1)呼吸の意義 2)呼吸を楽にする姿勢・呼吸法 6. 1)排痰ケア 2)吸入 7. 1)モデル人形を用いての一時的吸引 2)口腔内一時的吸引の実際（演習） 8. 1)酸素吸入療法 2)人工呼吸療法 3)酸素吸入療法の実際（演習）
授業形式	講義 演習
テキスト	基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ 医学書院
評価方法	臨床看護技術を総合して 記述試験・技術試験(100点満点)